中大スポーツ CHUDAI SPORTS
9月28日　月曜日
令和8年（2026）
〈第196号〉
中央大学体育連盟機関紙
発行人　松岡　明希
編集人　琴寄　由佳梨
八王子市東中野742―1
電　話　042(674)2802

中スポ

全日本学生軟式野球選手権大会決勝戦

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
周南公立大	1	0	0	0	1	0	0	2	1	1	6
中大	0	1	0	1	1	1	1	0	0	2X	7

史上初 サヨナラで決めた 四連覇!!

◆第49回全日本学生軟式野球選手権大会（8・22～25 スリーボンドスタジアム八王子他）
昨年、東日本大会準決勝で敗れ四冠を逃した軟式野球部。リベンジに燃えるチームは春季リーグ戦を制し、大会史上初の四連覇を懸けて全日本大会に臨んだ。炎天下、高い集中力で接戦をものにしたチームは「全員野球」で四連覇を達成。目標とする四冠に向けて、確かな一歩を踏み出した。

全員野球での勝利



田邉3試合3完投

田邉は初戦を完投し逆転勝利で終えた後「あと２日とも自分が投げると思うので」と強く言い切った。その言葉通り３日間で３試合３完投。ストライク先行のテンポの良い投球で優勝を手繰り寄せる大車輪の活躍を見せた。

昨年秋の東日本大会では、準決勝に登板し１失点で完投しながらも負け投手に。２年連続の四冠を逃す悔しい結果となった。この経験を生かして新チームでは主戦投手、副将としてチームを引っ張ってきた。

今大会では３試合全てで先制点を許す苦しい展開ながらも、相手打線や自身の状態を考えて配球を組み立てる臨機応変な投球で試合を作り、味方打線の逆転につなげた。特に決勝戦では気温35度を超える猛暑の中、周南公立大の強力打線を相手に味方の守備を信じて打たせて取り、延長タイブレークを１失点で抑えその後の逆転サヨナラ、優勝につなげた。２年ぶりの四冠へ向け田邉は左腕を振り続ける。



優勝を決め喜ぶ選手たち〈カメラ・平井琉偉〉
切り込み写真㊤は力投する田邉、㊦は打席に立つ藤井拓

軟式野球部

藤井拓が導く頂点

中大軟式野球部が頂点に立った大一番で４安打、大会を通じて打率３割９分５厘の大暴れでチームを引っ張ってきたのが藤井拓だ。「普段通りコンパクトに振れた」と冷静に振り返る。決勝戦の延長10回裏には、打ち損じながらも初球から積極的に振り抜き、サヨナラ打で優勝を決めた。

高田商高時代は硬式野球部で甲子園を目指していた藤井拓。中大軟式野球部の魅力を「学生主体」の環境だと語る。大人の指導者に頼らず、采配も自分たちで行う。「プレーしながら周りも見る。その楽しみと苦しみが将来につながる」と誇らしげだ。

王者の視線は、秋季リーグ戦連覇と東日本大会での優勝へ向いている。「プレッシャーを力に変えて四冠を達成したい」。学生主体の野球を体現する藤井拓が、チームを栄光へ導く。



終盤攻勢かける

二塁走者の若松虎太朗（文３）が本塁に滑り込むと、ナインの歓喜の輪が広がった。継続中の連覇記録を今年も一つ伸ばし、史上初の四連覇を達成した。

２回戦の広大戦。先発の田邉優河（商３）が６回に失策から２点を失った。８回にも適時打で１点を追加され、３点を先行される。打線も７回まで１安打に抑え込まれ、苦しい試合展開が続いた。しかし８回裏、藤井拓海（経２）の三ゴロに相手一塁手の悪送球が重なり１点を返した。この回に記録した安打は１本ながら、「低めと高めを捨てて」という打席内での意識を徹底。四球や相手の失策を逃さず、一挙３得点で試合を振り出しに戻した。９回裏には、２死二塁から４番大野友也（商２）がサヨナラ打を放ち、熱戦に終止符を打った。

田邉の粘投光る

翌日、準決勝の大和大戦。田邉は初回から２点を先行される立ち上がりとなった。しかし２回裏、中大は打者一巡の猛攻を見せ、４点を奪い逆転する。その後、田邉は的を絞らせない投球を披露。８回を４失点にまとめると、打線も５回と７回に３点ずつ追加点を奪い、８回コールド勝ちを収めた。

2年ぶり四冠へ

迎えた決勝の周南公立大戦。３日連続でマウンドに上がった田邉は、初回に適時打を浴び先制を許した。しかし２回裏、２死二塁から９番香川太佑（経３）の適時打で追い付くと、４回裏には香川の左犠飛で勝ち越した。５回、６回、７回と追加点を奪ったが、試合を決定づける点を取れずにいると、ここまで１人で投げ抜いてきた田邉が相手打線に捕まった。８回に２点、９回に１点を失って追い付かれ、１死満塁、絶体絶命の危機を迎える。しかし、これ以上の失点を与えず窮地を脱した。延長戦はタイブレークで、犠飛こそ打たれたものの後続を断ち１失点でしのいだ。その裏、先頭の市川春来（商３）のバントが相手の判断ミスを誘い、無死満塁の好機を迎える。藤井拓が右前に安打を放つと、三塁走者に続き二塁走者も生還し、逆転サヨナラ勝ちを決めた。今年４月に就任した今井監督は「全員野球での勝利じゃないかな」と選手を褒めたたえた。

全日本四連覇という偉業を成し遂げたチームの目標は２年ぶりの四冠。悲願達成に向け、残りの大会にチャレンジャーとして全員野球で挑む。

（鈴木朔太郎）

▼大会結果▼❶中大②周南公立大③大和大、東洋大

一枚の新聞から、サステナブルの未来をつくる日本製紙

Center Position
「なんとなく」。私の今までを年表にしてみたら、きっとどの出来事にも付く言葉。進路も部活も何もかも「なんとなく」で選択してきた。それが間違いだったとは思っていないけれど、どこか退屈だった。中スポは私にとって数少ない、明確に「やってみたい」と思えるものだった▼高校１年のお正月、毎年恒例の箱根駅伝観戦。附属校に進学した私は必然的に中大を応援していた。テレビをつけると、映っていたのは先頭を走る真紅の襷（たすき）。中大にはこんなすごい選手がいるのかと胸が高鳴る瞬間だった。すぐに中大駅伝部を検索し、その流れで中スポの存在を知る。駅伝だけでなく多くの選手が活躍していた。選手の活躍を最前線で感じ、伝えられる、スポーツ観戦が好きな私にとって、夢のような部活だった。こうして希望の学部よりも先に、中スポに入ることを決めた▼大学進学後、中スポに入部。初めて見る競技、優勝の瞬間。何より、全力で戦う選手たちの表情に目を奪われた。負けたら終わりの大会で、コンマ数秒を争う場面で、今までの全てをぶつける選手たちの姿は、ただひたすらにかっこよかった。同時に「どうやったらこの魅力を多くの人に伝えられるだろう」と模索する日々だった。ウェブ記事やSNSの投稿、紙面制作。選手の活躍が多くの人の目に留まると、おこがましくも自分のことのようにうれしかった▼引退まで約100日。思えば中大アスリートからもらった感動が原動力となり、ここまでやってこられた。残り少ない取材も、紙面制作も、仲間とのかけあいも、一瞬一瞬を大事にしたい。中スポが、昔の私のように誰かの力になれていますように。（渡邉 洋大）

らーめん
にんにくや
Instagram: ninnikuyaseki
X: ninnikuyaseki
応援してるぞ〜!!

広告主、募集中。
中スポ
で、宣伝してみませんか
E mail:
chu-spo@hotmail.co.jp

レイアウト　手代木幸

◆野球好き◆　中大軟式野球部の部員はみんな一般入学生!!　今井監督はいつまでも野球を愛せるメンバーが集まっていると語っています